



岡崎市立六ツ美西部小学校 校長通信

## 校長室の窓から

～校訓 人に優しく 自分に強く～

2号

平成31年4月19日

六ツ美西部小学校長  
山本 則夫

### 教師の働き方改革の先にあるもの

文部科学省が2年前に行った実態調査では、時間外勤務、いわゆる残業が「過労死ライン」とされる、月80時間を超える恐れのある教師は、小学校で3割、中学校で6割に上りました。

私は、昭和最後の63年4月に岡崎市の中学校に採用され、教師としてスタートを切りました。その頃、学校現場で、「過労死ライン」とか「働き方改革」という言葉は聞いたことがありませんでした。むしろ、教師の仕事は24時間勤務、ひとたびトラブルが起これば時間と場所を問わず奔走していました。部活動もたいへん盛んな学校で、毎日午前7時には朝練習が始まり、夏場は、夕練習を終えて生徒を下校させると午後7時をまわります。そこから、教材研究、行事の準備、家庭訪問、学年会…、山のような仕事が待っています。それが当たり前でした。正直、苦しいときもありましたが、常に同僚や先輩の支えもあり何とかやってこられました。



今、働き方改革の波が教育現場にも押し寄せています。その目的のひとつは、「教職員の心身の健康を守ること」です。しかし、その目的の先にあるものは、「教育の質の向上」です。先生が疲弊し、疲れ切った顔で教壇に立って、子供たちに「明るく元気に勉強しよう！」とは言えません。先生がゆとりをもって働き、先生自身が健康であることが、子供たちの表情や言動をしっかりと受け止め、生き生きとした授業につながります。

右の写真は昨日の職員会議の様子です。今年から会議資料の印刷をやめ、全員パソコン上でデータを共有する会議に変えました。これにより、紙代、印刷・帳合いの時間の節約が可能となりました。小さなことですが先生の時間を生み出すことができました。



また、緊急対応以外の電話対応等も最終下校時刻後1時間を目安に対応させていただく等、保護者や地域の方々にもご協力いただくことで業務改善を進めていきます。校長としては、ここで生み出された時間を、まずは、先生自身や家族のために使ってほしいのですが、職員の様子を見ると、クラスの子供たちや明日の授業準備のために、さらに時間を費やしているようで、遅くまで頑張る姿に感謝の気持ちと心配な気持ちが交錯しています。

教師のやりがいは、一つの授業や行事をやり遂げたとき、そこに子供たちの成長が成果としてあらわれることです。子供たちと感動を共にし、いっしょに笑い、ときにはいっしょに悔し涙を流し、教師も成長します。一度この感動を味わってしまうと、ついつい時間を忘れて、教育にのめり込んでしまいます。

今後も、校長として、職員の健康保持と六ツ美西部小学校の教育の質の向上をめざして、教師の働き方改革を進めていきます。ご理解とご協力をお願いいたします。